

に達せしめたのである。即ち三論宗は隋の吉藏に至つて成就し、杜順の華嚴宗、智顛（チガイ）の天台宗もまた隋代に起つたが、唐代に入ると玄奘の法相（ほつそう）宗、道宣の律宗、金剛智・不空（いずれもインド人）等の眞言宗が相次いで成立した。このほか達磨によつて傳えられたという禪宗は唐の慧能（エノウ）によつて盛んになり、淨土宗も唐の道綽、その弟子善導に至つて隆盛を極めた。殊に禪・淨土の二宗は、最も中國化された佛教として、その他の諸宗派が衰えた後もなお盛運を持續したのである。

佛教の影響を受けて起り、これと對抗しつつ發達して來たと言つてよい道教も、佛教が中國的な佛教として大成した唐代には、朝廷の特別の保護も加わつて、あらゆる點でこれに匹敵する民族的大宗教として完成を告げ、兩者相並んで上下に信仰されるに至つたのであつた。

これら佛道二教の隆盛には遠く及ばなかつたとしても、胡俗の流行の著しかつた隋唐時代には、イラーン系の諸宗教もまた中國に傳來して或る程度の流行を見たことを注意しなければならぬ。唐代にその寺院を總稱して三夷寺と呼んだ。祆（けん）教・摩尼（まに）教・景教の三者はそれである。祆教とはサッサン朝ペルシアの國教であつたゾロアスター教・拜火教のことである。このイラーン固有の信仰がソグド邊りから中國に傳わつたのは五世紀の半ば頃から六世紀にかけて、即ち北魏から北周・北齊にかけての時代のことであつたが、當時は胡天神とか火神天神とか稱しただけで、未だ祆神・祆教とは呼ばなかつた。祆はこの教が漸く中國で廣まり出した唐初になつて、示と天とを組合せて新たに作られた文字に過ぎない。いずれにせよ祆教が隋唐時代になつてやや流行を見たことは、隋代に國內の信者を取締るために薩甫もしくは薩保という特殊の官を置き、唐代に及んでも同様であつたことから